

平成28年度(2016年度) 文学部専門教育科目授業日程計画

曜日 月	曜日							備 考	曜日 月	曜日							備 考	
	日	月	火	水	木	金	土			日	月	火	水	木	金	土		
4 月						1	2	1日 学部オリエンテーション	10 月							1	3日 第3学期授業開始	
	3	4	5	6	7	8	9	2日 入学式		2	3	4	5	6	7	8	10日 体育の日	
	10	11	12	13	14	15	16	3日 全学統一TOEIC-IP		9	10	11	12	13	14	15		
	17	18	19	20	21	22	23	4日 第1学期授業開始		16	17	18	19	20	21	22		
	24	25	26	27	28	29	30	29日 昭和の日		23	24	25	26	27	28	29		
5 月		1	2	3	4	5	6	7	3日 憲法記念日	11 月			1	2	3	4	5	3日 文化の日
	8	9	10	11	12	13	14	4日 みどりの日	6		7	8	9	10	11	12	4日～6日 大学祭	
	15	16	17	18	19	20	21	5日 こどもの日	13		14	15	16	17	18	19		
	22	23	24	25	26	27	28	注 30日 金曜日の授業を行う。	20		21	22	23	24	25	26	23日 勤労感謝の日	
	29	30	31						27		28	29	30				注 29日 金曜日の授業を行う。	
6 月				1	2	3	4	3日 第2学期授業開始	12 月					1	2	3	2日 第4学期授業開始	
	5	6	7	8	9	10	11			4	5	6	7	8	9	10	10日 全学統一TOEIC-IP (平成28年度入学生)	
	12	13	14	15	16	17	18			11	12	13	14	15	16	17	11日 全学統一TOEIC-IP (平成27年度入学生)	
	19	20	21	22	23	24	25			18	19	20	21	22	23	24	23日 天皇誕生日	
	26	27	28	29	30					25	26	27	28	29	30	31	25日～1月4日 冬季休業	
7 月						1	2		1 月	1	2	3	4	5	6	7	1日 元日	
	3	4	5	6	7	8	9			8	9	10	11	12	13	14	2日 振替休日	
	10	11	12	13	14	15	16	18日 海の日		15	16	17	18	19	20	21	9日 成人の日	
	17	18	19	20	21	22	23	注 29日 月曜日の授業を行う。		22	23	24	25	26	27	28	13日 大学入試センター試験準備のため臨時休業	
	24	25	26	27	28	29	30			29	30	31					14日・15日 大学入試センター試験	
8 月		1	2	3	4	5	6	1日～9月30日 夏季休業	2 月				1	2	3	4	注 9日 月曜日の授業を行う。	
	7	8	9	10	11	12	13	5日・6日 オープンキャンパス		5	6	7	8	9	10	11	11日 建国記念の日	
	14	15	16	17	18	19	20	11日 山の日		12	13	14	15	16	17	18	13日・14日 臨時休講	
	21	22	23	24	25	26	27	12日～16日 夏季一斉休業		19	20	21	22	23	24	25	15日～3月31日 春季休業	
	28	29	30	31				22～26日 集中講義A 29～31日 集中講義B		26	27	28					25日・26日 一般入試(前期日程)	
9 月					1	2	3	1～2日 集中講義B	3 月					1	2	3	4	
	4	5	6	7	8	9	10	5～9日 集中講義C		5	6	7	8	9	10	11		
	11	12	13	14	15	16	17	12～16日 集中講義D		12	13	14	15	16	17	18	12日 一般入試(後期日程)	
	18	19	20	21	22	23	24	19日 敬老の日		19	20	21	22	23	24	25	20日 春分の日	
	25	26	27	28	29	30		22日 秋分の日 26～30日 集中講義E		26	27	28	29	30	31		24日 卒業式	
第1学期計	8	8	8	8	8	8	授業週数(含試験)	第3学期計	8	8	8	8	8	授業週数(含試験)				
第2学期計	8	8	8	8	8	第4学期計		8	8	8	8							

↑ 7月29日を含む ↑ 5月30日を含む

↑ 2月9日を含む ↑ 11月29日を含む

- 第1学期 4月 1日～6月 2日
- 第2学期 6月 3日～7月 31日
- 第3学期 10月 1日～12月 1日
- 第4学期 12月 2日～2月 14日

- 休業日及び臨時休業を示す。
- 他の曜日の授業を行う日を示す。
- 気象警報等により休講とした場合の補講日を示す。

※ 補講については、土曜日を含め、授業担当教員が指定した日に行う。

6. 岡山大学文学部履修細則

卒業資格単位数は、入学した年度の学生便覧に掲載されているものが適用されるので、注意してください。(ただし、編入学・転学部等の場合を除く。)

第1条 この細則は、岡山大学文学部規程第8条第4項の規定に基づき、岡山大学文学部（以下「本学部」という。）における授業科目の単位の履修方法について必要な事項を定めるものとする。

第2条 本学部の学科に、それぞれ次のとおり各分野を設ける。

- 2 学生は、入学後指定の期日までに、所属を希望する分野を学部長に届け出て許可を受けなければならない。
- 3 所属した分野の変更を志望するものがあるときは、指定の時期に、変更を希望する分野を学部長に届け出なければならない。

学科	分 野
人 文 学 科	哲学・倫理学分野 芸術学・美術史分野 地理学・社会学・文化人類学・社会文化学分野 心理学・社会心理学分野 歴史学・考古学分野 言語学・現代日本語学分野 日本語・日本文学分野 外国語・外国文学分野

第3条 人文学科の卒業資格単位数は、別表に掲げるとおりとする。

附 則

- 1 この細則は、平成7年4月1日から施行する。
- 2 平成6年度以前の入学者については、なお従前の例による。

(附 則 以下中略)

附 則

- 1 この細則は、平成28年4月1日から施行する。
- 2 平成27年度以前の入学者については、改正後の授業科目の履修方法の別表にかかわらず、従前の哲学芸術学専修コース、行動科学専修コース、歴史文化学専修コース、言語科学専修コース、言語文化学専修コースの授業科目の履修方法の各別表のうち、教養教育科目のガイダンス科目に「人文学の基礎A」「人文学の基礎B1」「人文学の基礎B2」を加え、外国語科目の必修科目として「総合英語1-1」「総合英語1-2」「総合英語2-1」「総合英語2-2」「総合英語3-1」「総合英語3-2」「総合英語4-1」及び「総合英語4-2」を加え、適用する。また、言語文化学専修コースの授業科目の履修方法の別表のうち、専門教育科目の必修科目に「英米言語文化学概説」を加え、適用する。

人文学科

授業科目の履修方法

科目区分			授業科目名	必修 単位	選択必修 単位	卒業資格 単位	配当年次	
教養教育科目	導入教育	ガイダンス	人文学の基礎A	1単位		3単位	1年次	
			人文学の基礎B 1	0.5単位				
			人文学の基礎B 2	0.5単位				
			全学ガイダンス科目	1単位				
		補習教育				卒業要件外		
	知的理解	現代と社会	人文・社会科学系科目	2単位	4単位 以上			1～2年次
		現代と生命	生命科学系科目	2単位				
		現代と自然	自然科学系科目	2単位				
	実践知・ 感性	実践知	実践・社会連携系科目					
		芸術知	芸術系科目					
	汎用的 技能と健康	情報教育	情報リテラシー系科目	1単位				
			ICT(Information & Communication Technology)系科目					
		キャリア教育	キャリア教育・学生支援系科目					
	健康・スポーツ科学	健康・スポーツ科学	健康・スポーツ科学					
			スポーツ演習(する・みる・支える)					
	言語	英語	英語コミュニケーション1-1	0.5単位		26単位		
			英語コミュニケーション1-2	0.5単位				
			英語コミュニケーション2-1	0.5単位				
			英語コミュニケーション2-2	0.5単位				
			英語コミュニケーション3-1	0.5単位				
英語コミュニケーション3-2			0.5単位					
英語コミュニケーション4-1			0.5単位					
英語コミュニケーション4-2			0.5単位					
英語コミュニケーション5-1			0.5単位					
英語コミュニケーション5-2			0.5単位					
英語コミュニケーション6-1			0.5単位					
英語コミュニケーション6-2			0.5単位					
プレ上級英語								
上級英語								
英語特別演習1								
英語特別演習2								
初修外国語	A群	ドイツ語 フランス語 中国語 韓国語	初修外国語系科目		4単位 以上			
	B群	ロシア語 スペイン語 イタリア語						
	日本語	日本語系科目(留学生のみ)						
高年次教養			高年次教養科目	1単位		1単位	3～4年次	
教養教育科目単位						30単位		
専門教育科目	専門基礎科目	必修科目	人文学の論点		5単位	1年次		
			人文学入門演習(注1)		1単位	1年次		
	専門科目		人文学概説(注2)		10単位	2～4年次		
			人文学講義(注3)		8単位	2～4年次		
			実践演習(注4)		8単位	2～4年次		
			課題演習(注5)		6単位	3～4年次		
		自由科目	文学部の全ての専門教育科目 他学部の全ての専門教育科目		46単位	1～4年次		
専門科目	卒業論文			10単位	4年次			
専門教育科目単位						94単位		
合計単位						124単位		

(注1)(注2)(注3)(注4)(注5)に該当する授業科目については、別紙を参照すること。

注 意

1. 自由科目とは、必修科目として指定された科目以外の専門教育科目をいう。これは、他学部開講の専門教育科目を含むものとする。
また、必修科目として規定された単位数を超えて修得した単位もこの科目の単位とすることができる。
2. (注1)(注2)(注3)(注4)(注5)の履修科目については、必要に応じてアカデミック・アドバイザー、指導教員と相談のうえ決定すること。
3. 年次とは、入学後の年数をいい、入学後1年目を1年次、2年目を2年次、3年目を3年次、4年目以降を4年次という。
4. 外国人留学生にあつては 教養教育科目の言語科目のうち、英語コミュニケーション1-1～英語コミュニケーション6-2(6単位)を他の外国語科目の単位をもって換えることができる。

別表

注1 人文学入門演習科目一覧
人文学入門演習 (哲学・倫理学)
人文学入門演習 (芸術学・美術史)
人文学入門演習 (地理学・社会学・文化人類学・社会文化学)
人文学入門演習 (心理学・社会心理学)
人文学入門演習 (歴史学・考古学)
人文学入門演習 (言語学・現代日本語学)
人文学入門演習 (日本語・日本文学)
人文学入門演習 (外国語・外国文学)

注2 人文学概説科目一覧
人文学概説 (哲学1a)
人文学概説 (哲学1b)
人文学概説 (哲学2a)
人文学概説 (哲学2b)
人文学概説 (倫理学1a)
人文学概説 (倫理学1b)
人文学概説 (倫理学2a)
人文学概説 (倫理学2b)
人文学概説 (芸術学1a)
人文学概説 (芸術学1b)
人文学概説 (芸術学2a)
人文学概説 (芸術学2b)
人文学概説 (西洋美術史a)
人文学概説 (西洋美術史b)
人文学概説 (日本美術史a)
人文学概説 (日本美術史b)
人文学概説 (西洋思想史a)
人文学概説 (西洋思想史b)
人文学概説 (日本思想史a)
人文学概説 (日本思想史b)
人文学概説 (美学1a)
人文学概説 (美学1b)
人文学概説 (美学2a)
人文学概説 (美学2b)
人文学概説 (心理学1a)
人文学概説 (心理学1b)
人文学概説 (心理学2a)
人文学概説 (心理学2b)
人文学概説 (人文地理学a)
人文学概説 (人文地理学b)
人文学概説 (自然地理学a)
人文学概説 (自然地理学b)
人文学概説 (社会学1a)
人文学概説 (社会学1b)
人文学概説 (社会学2a)
人文学概説 (社会学2b)
人文学概説 (文化人類学a)
人文学概説 (文化人類学b)
人文学概説 (社会文化学a)
人文学概説 (社会文化学b)
人文学概説 (日本史1a)
人文学概説 (日本史1b)
人文学概説 (日本史2a)
人文学概説 (日本史2b)
人文学概説 (アジア史1a)
人文学概説 (アジア史1b)
人文学概説 (アジア史2a)
人文学概説 (アジア史2b)
人文学概説 (西洋史1a)
人文学概説 (西洋史1b)
人文学概説 (西洋史2a)
人文学概説 (西洋史2b)
人文学概説 (考古学1a)
人文学概説 (考古学1b)
人文学概説 (考古学2a)
人文学概説 (考古学2b)
人文学概説 (言語学a)
人文学概説 (言語学b)
人文学概説 (日本語学1a)
人文学概説 (日本語学1b)
人文学概説 (日本語学2a)
人文学概説 (日本語学2b)
人文学概説 (英語学a)
人文学概説 (英語学b)
人文学概説 (フランス語学a)
人文学概説 (フランス語学b)
人文学概説 (日本文学1a)
人文学概説 (日本文学1b)
人文学概説 (日本文学2a)
人文学概説 (日本文学2b)
人文学概説 (中国言語文化学1a)
人文学概説 (中国言語文化学1b)
人文学概説 (中国言語文化学2a)
人文学概説 (中国言語文化学2b)
人文学概説 (英語圏文学a)
人文学概説 (英語圏文学b)
人文学概説 (ドイツ言語文化学a)
人文学概説 (ドイツ言語文化学b)
人文学概説 (フランス文化史1a)
人文学概説 (フランス文化史1b)
人文学概説 (フランス文化史2a)
人文学概説 (フランス文化史2b)

注3 人文学講義科目一覧

人文学講義 (哲学a)
人文学講義 (哲学b)
人文学講義 (倫理学a)
人文学講義 (倫理学b)
人文学講義 (美学a)
人文学講義 (美学b)
人文学講義 (芸術学a)
人文学講義 (芸術学b)
人文学講義 (日本美術史a)
人文学講義 (日本美術史b)
人文学講義 (西洋美術史a)
人文学講義 (西洋美術史b)
人文学講義 (思想史)
人文学講義 (心理学a)
人文学講義 (心理学b)
人文学講義 (地理学a)
人文学講義 (地理学b)
人文学講義 (地誌学a)
人文学講義 (地誌学b)
人文学講義 (社会学a)
人文学講義 (社会学b)
人文学講義 (文化人類学a)
人文学講義 (文化人類学b)
人文学講義 (社会文化学a)
人文学講義 (社会文化学b)
人文学講義 (日本史a)
人文学講義 (日本史b)
人文学講義 (アジア史a)
人文学講義 (アジア史b)
人文学講義 (西洋史a)
人文学講義 (西洋史b)
人文学講義 (考古学a)
人文学講義 (考古学b)
人文学講義 (比較宗教史a)
人文学講義 (比較宗教史b)
人文学講義 (文化交流史a)
人文学講義 (文化交流史b)
人文学講義 (言語学 1 a)
人文学講義 (言語学 1 b)
人文学講義 (言語学 2 a)
人文学講義 (言語学 2 b)
人文学講義 (言語学 3 a)
人文学講義 (言語学 3 b)
人文学講義 (日本語学a)
人文学講義 (日本語学b)
人文学講義 (現代日本語学a)
人文学講義 (現代日本語学b)
人文学講義 (日本語教育学a)
人文学講義 (日本語教育学b)
人文学講義 (英語学a)
人文学講義 (英語学b)
人文学講義 (フランス語学a)
人文学講義 (フランス語学b)
人文学講義 (言語文化学a)
人文学講義 (言語文化学b)
人文学講義 (日本文学a)
人文学講義 (日本文学b)
人文学講義 (中国言語文化学a)
人文学講義 (中国言語文化学b)
人文学講義 (英語圏文学a)
人文学講義 (英語圏文学b)
人文学講義 (ドイツ言語文化学a)
人文学講義 (ドイツ言語文化学b)
人文学講義 (フランス言語文化学a)
人文学講義 (フランス言語文化学b)
人文学講義 (日仏文化交流a)
人文学講義 (日仏文化交流b)

注4 実践演習科目一覧

実践演習 (哲学a)
実践演習 (哲学b)
実践演習 (倫理学a)
実践演習 (倫理学b)
実践演習 (美学a)
実践演習 (美学b)
実践演習 (芸術学a)
実践演習 (芸術学b)
実践演習 (日本美術史a)
実践演習 (日本美術史b)
実践演習 (西洋美術史a)
実践演習 (西洋美術史b)
実践演習 (思想史a)
実践演習 (思想史b)
実践演習 (心理学a)
実践演習 (心理学b)
実践演習 (地理学a)
実践演習 (地理学b)
実践演習 (社会文化学a)
実践演習 (社会文化学b)
実践演習 (心理学実験a)
実践演習 (心理学実験b)
実践演習 (フィールド調査a)
実践演習 (フィールド調査b)
実践演習 (地理学野外実験a)
実践演習 (地理学野外実験b)
実践演習 (社会調査a)
実践演習 (社会調査b)
実践演習 (地理学野外実験)
実践演習 (日本史a)
実践演習 (日本史b)
実践演習 (地域歴史遺産)
実践演習 (アジア史a)
実践演習 (アジア史b)
実践演習 (西洋史a)
実践演習 (西洋史b)
実践演習 (考古学a)
実践演習 (考古学b)
実践演習 (言語学 1 a)
実践演習 (言語学 1 b)
実践演習 (言語学 2 a)
実践演習 (言語学 2 b)
実践演習 (日本語学a)
実践演習 (日本語学b)
実践演習 (現代日本語学a)
実践演習 (現代日本語学b)
実践演習 (英語学a)
実践演習 (英語学b)
実践演習 (フランス語学a)
実践演習 (フランス語学b)
実践演習 (言語文化学a)
実践演習 (言語文化学b)
実践演習 (日本文学a)
実践演習 (日本文学b)
実践演習 (中国言語文化学a)
実践演習 (中国言語文化学b)
実践演習 (英語圏文学a)
実践演習 (英語圏文学b)
実践演習 (ドイツ言語文化学a)
実践演習 (ドイツ言語文化学b)
実践演習 (フランス言語文化学a)
実践演習 (フランス言語文化学b)
実践演習 (日仏文化交流a)
実践演習 (日仏文化交流b)
実践演習 (日仏合同授業a)
実践演習 (日仏合同授業b)

注5 課題演習科目一覧

課題演習 (哲学・倫理学)
課題演習 (芸術学・美術史)
課題演習 (心理学)
課題演習 (社会学)
課題演習 (文化人類学)
課題演習 (社会文化学)
課題演習 (地理学)
課題演習 (日本史)
課題演習 (アジア史)
課題演習 (西洋史)
課題演習 (考古学)
課題演習 (日本語学)
課題演習 (現代日本語学)
課題演習 (フランス語学)
課題演習 (言語学)
課題演習 (英語学)
課題演習 (日本文学)
課題演習 (英語圏言語文化学)
課題演習 (ドイツ言語文化学)
課題演習 (フランス言語文化学)
課題演習 (中国言語文化学)

7. 履修に関する事項

1 授業の方法

授業は、講義、演習、実験、実習のいずれかにより又はこれらの併用により行われます。

2 単位の計算方法

授業科目の1単位当たりの学修は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数が定められています。

授業の種類・方法	大学の授業による学修時間	授業時間外に必要な学修時間
講義、演習	15時間	30時間
実験、実習	30時間	15時間

3 履修手続きについて

(1) 授業科目は、それぞれの配当年次に履修してください。

*配当年次は各年度の「文学部専門教育科目授業時間割」又はシラバスで確認してください。

*特に記載のあるものを除き、配当年次以上の年次であれば履修できます。

*教養教育科目は、高年次に配当される科目を除き、1年次、2年次において確実に修得することが望まれます。

*概説科目は、2～3年次において確実に修得することが望まれます。

*平成27年度以前入学生対象の所属専修コースの課題演習については、『「専修コース課題演習」履修に係る取扱いについて』を参照してください。

(2) 学生は、卒業要件科目・単位数等を考慮のうえ履修してください。なお、卒業要件科目・単位数は入学年度の学生便覧（履修細則）により確認してください。

(3) 文学部では年度前半・年度後半でそれぞれ15単位以上、通年30単位以上を単位修得の標準としています。ただし、高年次になると演習科目や卒業論文作成のための時間が増えるため、無理のない範囲でしっかり履修してください。

(4) 文学部専門教育科目のうち、シラバスの「重複履修の可否」に「可」とあるものは同一名の授業科目を重複して履修することができます。また、これにより修得した単位は卒業資格単位として認められます。

*教養教育科目及び他学部の専門教育科目は一部の科目を除き原則として重複履修ができません。履修の手引や文学部教務担当で個別に確認してください。

(5) 他学部開講の科目（教職関係科目を含む。）を履修する場合は、当該科目の開講される学部において、時間割、シラバス等を確認した後、本学部で履修手続きをとってください。

(6) 履修登録は第1・2学期及び夏季集中に開講される科目は4月に、第3・4学期及び冬季集中に開講される科目は、9月～10月にWEBにより登録します。また、履修登録後、第2学期に開講される科目については6月に、第4学期及び冬季集中に開講される科目については12月に履修登録の修正期間が設定されています。なお、履修登録が確定された後に履修登録科目を削除することはできませんが、夏季集中に開講される科目についてのみ、履修登録確定後に履修取消の手続きができます。登録期間等の詳細は掲示にてお知らせします。

4 単位の上限

*履修科目として登録できる単位数の上限は、年間60単位を限度とします。この上限単位は、教養教育科目と専門教育科目を合わせた総単位数とします。

*履修登録をして「F」となった科目、「大学コンソーシアム岡山で履修した科目」の単位は上記60単位に含まれません。TOEIC-IP試験等により認定された単位は含まれません。

*これは、履修上限についてのもので、卒業資格単位とは異なります。例えば、TOEIC-IP試験で認定された単位は履修の上限に含まれませんが、卒業資格単位としては認められます。

*なお、教養教育科目の「基礎英語」、「留学生支援ボランティア実習」、「学生支援ボランティア実習」及び補習教育科目は上記60単位に含みません。

5 留学等による単位の認定

(1) 留学先の大学で修得した単位は、60単位を限度とし、教育委員会の議を経て、本学での修得単位として認定することがあります。

*認定を希望する場合は、留学開始までに文学部教務担当で必要書類や手続を確認し、帰国後、手続を行ってください。

*なお、留学先の大学で修得した単位のうち、各専修コース又は各分野の課題演習科目2単位を限度に修得単位として認定することがあります。認定を希望する場合は、指導教員と相談のうえ、留学前に教務担当へ連絡してください。

(2) 外部検定試験等による単位認定を希望するときは、所定の期間に手続をしなければなりません。

*手続期間は7月と2月です。期間は別途掲示します。認定の詳細は、『岡山大学文学部における外国語科目等に係る単位認定基準』を参照してください。

6 成績の評語及びG P (グレード・ポイント)

評語	G P	評点 (整数)	基準等
A+	欄外の	90~100点	合格 (単位を授与する。)
A	GP算出	80~89点	
B	方法を	70~79点	
C	参照	60~69点	
F	0	0~59点	不合格 (単位を授与しない。)
W	対象外	付さない	履修登録後において、大学が別に定める履修取消期間内に、履修取消手続を行った授業科目
認定	対象外	付さない	①入学前の既修得単位及び転学、編入学等の既修得単位について、学部・研究科の判断により、本学における授業科目の履修により修得したものとみなし、単位を授与する場合 ②他の大学等において履修し修得した授業科目の単位又は大学以外の教育施設等における学修について、学部・研究科の判断により、本学における授業科目の履修により修得したものとみなし単位を授与する場合で、評点により評価しがたい場合
修了	対象外	付さない	本学の開設する授業科目のうち、授業の特殊性に鑑み、評点により評価しがたいもの、若しくは一定の到達度をもって評価し単位を授与する場合
未修得	対象外	付さない	修了の評語をもって合格の評価とする授業科目で、不合格 (単位を授与しない。) とする場合

G P 算出方法

$$G P = (\text{評点} - 55) / 10$$

※ただし、評語「F」(不合格:評点60点未満)のG Pは0とします。また、「W」、「認定」、「修了」、「未修得」については、対象外としG Pを付しません。

G P A の算出方法

履修登録した科目ごとにG Pに単位数を掛け、その総和を履修登録単位数の合計で割って算出します。

$$G P A = \frac{(\text{履修登録した授業科目の単位数} \times \text{当該授業科目のG P}) \text{の総和}}{\text{履修登録した授業科目の単位数の合計}}$$

7 成績通知

本学では、保護者との連携により、学生に適切な修学指導を行うことを目的として、学生の皆さんの成績(通算の単位修得状況)を、毎年度3月(入学した年度のみ9月と3月)に保護者の方へ通知します。

8 学修計画書の作成（平成28年度入学生対象）

文学部の学生は、在学中にどのような目標をもってどのような学修・研究を行うかといったことを入学時から常に主体的に考えなければなりません。そのため、在学中に複数回にわたって「学修計画書」を作成し、大学に提出します。計画書の様式や提出時期については、4月のガイダンスや掲示によって連絡します。

9 クラスタ（平成28年度入学生対象）

文学部では、各分野の専門科目群のほかに、特定の分野に収まらない現代的課題や普遍的な問題に対応すべく、「クラスタ」と呼ばれる科目群を設定します（平成29年度より）。開設するクラスタ、開講科目については、各年度の始めに公表します。

10 プログラム（平成28年度入学生対象）

文学部では、専門教育と並行して、資格取得や実践的語学能力の養成をサポートする「プログラム」を開設しています。これには、「学芸員課程プログラム」と「外国語習得・留学プログラム」（中国語・ドイツ語・フランス語）があります。これらは、どの分野からも履修が可能です。

*「学芸員課程プログラム」については、「資格の取得に関すること」の該当頁を確認してください。

8. 岡山大学の試験等における受験心得

受験にあたっては、次の各事項に留意してください。（不明な点については授業担当教員へ確認してください。）

- ① 受験する学生は特別の指示がない限り、試験開始時刻の5分前までに所定の教室に入室を完了すること。
- ② 監督者が指定した座席において受験すること。
- ③ 受験中は必ず学生証を机の上に置くこと。
ただし、学生証を紛失又は忘れた場合は、監督者に申し出て、その指示に従うこと。
- ④ 受験中、机の上に置くことができるのは、学生証、筆記用具及びその他特に許可されたものに限る。それ以外の携行品はカバン等に入れて、座席の下に置くこと。また、机の棚板（物入れ）には何も置かないこと。
- ⑤ 携帯電話や音の出る機器は、必ず電源を切っておくこと。
- ⑥ 解答用紙には、所属学部名、入学年、番号及び氏名等の必要事項を必ず万年筆又はボールペンで記入すること。
- ⑦ 試験開始後20分を経過するまでは退室できない。
- ⑧ 試験開始後20分を経過した場合は入室できない。
- ⑨ 答案用紙は、特に指定がない場合、教卓上に提出するか、又は監督者に直接手渡すこと。自己の机の上に置いて退出すると当該授業科目の単位は認定しない。
- ⑩ 受験にあたっては、厳正な態度で臨み、誤解を招くような態度や不正行為は厳に慎むこと。

なお、監督者の指示に従わない者、及び不正行為があると認められた者に対しては、学則第58条（大学院学則第49条）により厳重な懲戒処分を行う。

懲戒処分の対象となる行為は次のとおりである。ここで、試験時間中とは、解答の開始から答案の提出までをいう。

- 1) 代理（替玉）受験をしたり、させたりすること
- 2) 試験時間中に、使用が許可されていないノート及び参考書等並びに電子機器類その他不正行為の手段となり得る物品を参照すること又は使用すること
- 3) 試験時間中に、言語、動作又は電子機器類等により他人に教示すること又は教示を受けて解答に利用すること
- 4) 答案を交換すること
- 5) 試験時間中に、他の学生の答案をのぞき見すること
- 6) 試験時間中に、使用が許可されたノート及び参考書等並びに電子機器類を貸借すること
- 7) 所持品、電子機器類、身体、机又は壁等に書き込みをして試験に臨むこと
- 8) 不正行為を幫助すること
- 9) 試験時間中に、不正行為の手段となり得る物品を机の棚板（物入れ）に置いておくこと
- 10) 不正行為を行おうとすること又は監督者の注意若しくは指示に従わないこと
- 11) その他、試験の公正な実施を妨げる行為をすること

また、不正行為を行った場合は、当該行為が行われた時点において既に単位が認定されている授業科目を除いて、当該学期に履修している全ての授業科目（学期をまたがって履修する授業科目を含む。）の単位は認定しない。

9. 岡山大学文学部成績評価基準

岡山大学文学部規程（平成16年岡大文規程第1号）第10条の規定に基づき、岡山大学文学部成績評価基準を次のように定める。

- 1 成績評価は、授業への取組・受講態度、報告・発表状況、レポート、試験など多様な要素を組み合わせで行うものとする。一回の試験又は一回のレポート提出のみで成績評価を行うことはしない。
- 2 試験、レポート等は、成績評価の際に、受講及び受講のための学習準備を通じて得られた学習成果が、適切に反映されるよう課題設定を工夫するものとする。
- 3 各授業科目の成績評価の方法等は、シラバス（講義要覧）に明記するとともに、各授業において、学習目標と関連付けながら説明するものとする。また、A+、A、B、C及びF等の区分についても併せて説明する。
- 4 初年次導入科目のように、性格を同じくする授業科目を複数コマ開講する場合の成績評価の方法等は、担当教員による評価の差が生じないように、相互に調整し、可能な限り統一するものとする。また、1授業科目を複数の教員で担当する場合も同様とする。
- 5 卒業論文の評価は、次の項目等について、総合的に行うものとする。
 - ① 論文としての形式を満たしているか。
 - ② 必要な調査や実験、または文献の収集を行い、かつ適切な分析が行われているか。
 - ③ 論文のテーマ、目的、方法が明確であるか。また、論旨が明晰であり、言語表現が適切であるか。
 - ④ 口頭試問において質問に適切に答えられたか。なお、論文の形式等については、3年次第3学期、第4学期もしくは4年次第1学期、第2学期の課題演習において、担当の教員が指示するものとする。
- 6 成績評価に関する学生の質問及び疑問等には、適切に対応するものとする。

10. 成績評価に関する質問・疑問の受付について

1. 専門教育科目に関して、成績開示後、開示された成績評価に質問・疑問等がある場合は、当該授業担当教員に質問等を行うことができます。
2. 教員は学生からの成績評価に関する質問・疑問等を受け付け、真摯に対応します。
3. 文学部専門教育科目に関して教員からの回答に納得できない場合は、「文学部専門教育科目における成績評価異議申立に関する要項」に基づき、当該成績評価の開示日から原則として8日以内に異議を申し立てることができますので、文学部教務担当にその旨を申し出てください。
4. 他学部開講の専門教育科目に関して教員からの回答に納得できない場合は、当該授業科目を開講する学部等の教務担当にその旨を申し出てください。

11. 就業体験実習（インターンシップ）の履修について

就業体験実習の概要

1. 趣旨・目的
本実習は、在学中に一定期間、学外の一般事業所において就業体験を行うことにより社会的な知見を身につけるとともに、自らに適したキャリアを開発することを目的とする。
2. 対象学生
原則として3年次生とする。
3. 実施時期等
実習の実施時期は、原則として夏季休業中の2週間とする。
実習の実施にあたって、学生は受入機関からの報酬等は受けないものとする。
4. 実習内容等
実習内容は、原則として、受入機関の予定しているものを文学部学生生活委員会が確認し、承認するものとする。
5. 単位認定等
文学部学生生活委員会は、学生の提出する「実習結果報告書」、受入機関の「インターンシップ実施評価報告書」及び指導教員の「実習指導意見書」に基づき、単位の認定を行う。
6. 事故対策
実習中の事故に対処するため、学生は学生教育災害傷害保険及び賠償責任保険等に加入するものとする。
7. 守秘義務
実習中に学生が知り得た受入機関に関する情報については、守秘義務を負うものとする。
8. 運営機関
本実習の運営は、文学部学生生活委員会が行う。

授業科目区分	専門科目
授業科目	就業体験実習（インターンシップ）
単位	2単位
実施時期	原則として夏季休業中2週間
配当年次	3年次生
履修手続	詳細については別途掲示する。

12. 「専修コース課題演習」履修に係る取扱いについて

平成27年度以前入学生が履修する「専修コース課題演習」については、卒業論文の執筆に向けての段階的な指導を前提に開講するものであり、原則として3年次第3学期から4年次にわたって、ひとつの専門領域等で継続して履修することとし、履修方法の詳細については各専修コースで定めるものとする。

13. 卒業論文について

卒業論文の申合せ事項について

- 1 人文学科の課程を修め学士の学位を得るためには、卒業論文の審査に合格し、その成績をもって所定の単位の一部を満たさなければならない。
- 2 卒業論文提出予定者は、指導教員を通じて、所定の様式により研究テーマ届を10月31日午後5時15分までに教務担当に届け出ること。
なお、当日が休日（土曜日、日曜日及び国民の祝日に関する法律に規定する休日をいう。以下同じ。）の場合は、その翌日の午後5時15分までとし、連休となる場合は、最終休日の翌日の午後5時15分までとする。
- 3 卒業論文は、所定の手続に従い、1月31日午後5時15分までに教務担当に提出すること。
なお、当日が休日の場合は、第2項の規定を準用する。
- 4 9月末卒業を希望する者は、4月30日午後5時15分までに指導教員を通じて教務担当に所定の手続を行い、7月31日午後5時15分までに教務担当に卒業論文を提出すること。
なお、当日が休日の場合は、第2項の規定を準用する。
- 5 卒業論文の成績審査は、論文1点につき2人以上の教員がこれにあたり、各々の点数の平均点をもって専門科目10単位の成績とする。
(注) 論文の形式については、指導教員の指示を受けること。

14. 文学部既修得単位の認定内規

第1条 この内規は、文学部規程第19条第1項の規定に基づき、既修得単位の認定に関し、その取扱いを定める。

第2条 既修得単位の認定の出願資格は、次のとおりとする。

- 一 大学（外国の大学を含む。）又は短期大学（外国の短期大学を含む。）を卒業した者又は退学した者
- 二 科目等履修生として単位を修得した者

第3条 認定できる授業科目の区分及び認定単位は、次のとおりとする。

- 一 教養教育科目のうち言語科目 8単位まで
- 二 前号以外の教養教育科目 12単位まで
- 三 専門教育科目 10単位まで

第4条 既修得単位の認定を受けようとする者は、指定する日までに、次の書類を学部長に提出しなければならない。

- 一 既修得単位認定願（本学部所定の様式）
- 二 卒業証明書又は在学期間証明書
- 三 成績証明書及び講義内容を明示できるもの（講義概要等）

第5条 認定された授業科目は、卒業要件単位数とする。なお、成績評価の表示は「認定」とする。

（附則 省略）

15. 岡山大学文学部における外国語科目等に係る単位認定基準

文学部規程第15条第1項及び第19条第2項に基づき、文部科学大臣が定める学修の単位認定について、また、大学間交流協定大学等の語学研修により修得した単位の単位認定について、次のとおり申し合せる。

1. 単位認定に関する基準等は、「岡山大学教養教育科目の外国語科目等に係る単位認定基準」（平成28年1月19日教育開発センター運営委員会承認）（以下、「単位認定基準」という。）による。ただし、平成24年度以前入学生にあつては「外部検定試験等による単位認定基準に関する取扱要項」（平成16年4月1日学長裁定）の別表（以下、「取扱要項別表」という。）による。
2. 単位認定基準別表第5及び別表第6、取扱要項別表第5及び第6のうち南オレゴン大学、アデレード大学またはエクセター大学を研修先とする場合の認定科目及び単位数は『英語コミュニケーション1（平成28年度以降入学生にあつては、英語コミュニケーション1a、英語コミュニケーション1b）』2単位とする。また、ルール大学ポーfumを研修先とする場合の認定科目及び単位数は、別に定める。
3. 申請の方法は、所定の様式に成績証明書等を添えて、7月又は2月の指定する期日までに提出するものとする。なお、語学研修に係るものにあつては帰国後速やかに提出するものとする。
4. 単位の認定は、教授会において行う。
5. この申し合わせは、平成28年2月23日から施行する。ただし、取扱要項別表第6については、平成23年度に実施される語学研修より適用する。